

令和3年(2021年)病原体ウイルス分離・検出結果

奈良県保健研究センター ウイルス・疫学情報担当

奈良県感染症発生動向調査事業実施要綱および要領に従い、病原体定点対象疾患である、インフルエンザ、感染性胃腸炎、無菌性髄膜炎等について病原体検出を実施し、本県における流行疫学情報を収集している。

令和2年2月末以降、新型コロナウイルス感染症の行政検査の影響により、病原体サーベイランス検査を停止している。そのため、令和3年においても通常の小児科における病原体ウイルスの分離の検査依頼は大幅に減少した。令和3年に奈良県感染症発生動向調査事業として検査依頼された検体は、令和2年からさらに減少し、咽頭ぬぐい液14件、糞便14件、髄液9件および血清・他19件（総計56件）であった。病原体の検出法として、培養細胞によるウイルス検出は、RD-A、HEp-2、A549の3種の細胞に接種を行い、細胞変性が見られたものを陽性とした。その後、中和試験等の生物学的試験法を用い分離ウイルスの型識別を行った。また、ウイルス遺伝子の検出については、各病原体検出マニュアルに準じて、(RT-)PCR法、リアルタイムPCR法およびダイレクトシーケンス法等を用いて行った。

令和3年の感染症発生動向調査事業における奈良県でのウイルス感染症は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による受診控えや感染防止対策等、様々な影響からか、ほとんどの定点把握対象疾患の報告が大幅に減少した。特にインフルエンザについては患者報告数が激減し、病原体ウイルス分離の検査依頼及びウイルス検出は0件であった。その他、数年間隔で大流行を繰り返す感染性胃腸炎・手足口病等についても令和3年は検出ウイルスが少なかった。一方、RSウイルス感染症については大流行し、例年とは異なる動向となったが、病原体サーベイランス検査を停止していたため、検出ウイルスの特徴等の詳細な解析はできなかった。新型コロナウイルス感染症の流行の最中ではあるが、今後もサーベイランスを継続し、データの蓄積及び解析に努めたいと考える。

感染症発生動向調査事業で得られた詳細なデータは、今後の発生動向が注目される新型インフルエンザ、無菌性髄膜炎や数年の間隔で大流行を繰り返す感染性胃腸炎・手足口病等、疾患の流行予測において正確性の向上に資するものと考えています。

最後に、検体の提供にご協力をいただきました病原体定点医療機関の先生方に厚く御礼申し上げます。

ウイルス分離・検出状況：令和3年(2021年)【臨床材料別・採取月別】

表1-1 咽頭ぬぐい液

病原体	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
ライノ	C												1	1
ヒトヘルペス	7				1		1							2
サイトメガロ							1							1
EB									1					1
ヒトパレコ	3								1					1
合計					1		2		2				1	6

表1-2 糞便

病原体	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
ノロ	GII												3	3
アデノ	5						1							1
ライノ													1	1
ヒトパレコ	3								1					1
合計							1		1				4	6

表1-3 髄液

病原体	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
ヒトパレコ	3								1					1
合計									1					1

表1-4 血清

病原体	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
ヒトヘルペス	6B								1					1
ヒトヘルペス	7				1									1
合計					1				1					2

ウイルス分離・検出状況：令和3年(2021年)【臨床診断別・採取月別】

表2-1 感染性胃腸炎

病原体	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
ノロ	GII												3	3
合計													3	3

表2-2 手足口病

病原体	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
ライノ													2	2
合計													2	2

表2-3 無菌性髄膜炎

病原体	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
ヒトヘルペス	7				1		1							2
サイトメガロ							1							1
ライノ													2	2
合計					1		2						2	5